

世界へ発信！

北の縄文だより

vol.6



～みんなの知らない「JOMON World」～

社会教育課社会教育・文化財グループ (☎ 74-3010)

～縄文人の食卓～

入江・高砂貝塚は、噴火湾を見下ろす高台にあります。現在は、ホタテやカレイなどの海産物が名産となっていますが、縄文時代はどうだったのでしょうか。

貝塚を詳しく分析すると、どのようなものが食卓に並んだのかが見えてきます。また、実は、ヒトの骨を調

べることによって、何を多く食べていたのかを知ることができます。あらゆる分析の結果、入江貝塚と高砂貝塚の縄文人たちは、海産物を多く食べていたことがわかりました。

■貝塚からわかること

「貝塚」は、縄文人が食べた貝や動物の骨などを決まった場所に集めたものです。

長い年月をかけて繰り返し集められた結果、厚く積もった貝塚ができました。貝塚の層を上から丁寧に調べると、見つかったものを時代順に並べることができ

ます。

つまり、貝塚からは食べていたものの移り変わりや、当時の環境を知ることができるのです。



■縄文人の食卓

貝塚からは、ニシンやカレイ、マグロなどの魚類、イルカやオットセイ、トドなどのほ乳類の骨が見つかることから、豊富な海の幸をたくさん利用していたことがわかります。スズキやボラなど、今では噴火湾に生息していない魚の骨も見つかりました。これらの骨は、貝塚の下層から見つかるので、貝塚が作られ始めた縄文時代前期（約5千年前）は、今よりも少し暖かかったと想像されます。

他にも、エゾシカ、キタキツネ、エゾタヌキ、ハクチョウやウミウなどの骨も見つかることから、山の幸も大いに利用していたことがわかります。

現在の噴火湾では、コンブやワカメ、フノリ、ギンナンソウなどの海藻、アサリやマガキ、イガイ、ホタテガ

イなどの貝類が多く見られます。魚類やイルカ、オットセイなどの海洋ほ乳類もエサや繁殖の場を求めてやってきます。縄文時代も同じような光景が広がっていたでしょう。

入江・高砂貝塚に住んだ縄文人は、こうしたたくさんの海産物に食生活が支えられていました。さらに、野山を駆ける動物、遺跡には残らない木の実などを含めて考えれば、遺跡周辺には豊かな自然環境が広がり、恵まれた食料資源によって、長い期間安定した集落が支えられていたと言えるでしょう。

縄文人たちは、私たちが想像するよりずっと豊かな食卓を囲んでいたのかもしれない。



貝塚で見つかった貝殻



貝塚で見つかった魚の骨



貝塚で見つかったイルカの背骨

「世界遺産でパシャッ！北海道・北東北の縄文遺跡群 縄文フォトコンテスト 2022」開催中！

「私の好きな縄文」をテーマに、各遺跡やガイダンス施設で撮影した写真を募集しています！受賞者にはオリジナルカレンダーへの掲載や、豪華景品プレゼントもあります。

この機会に、入江・高砂貝塚の写真を撮ってみませんか？

■応募締切 令和5年1月13日（金）

■応募方法 QRコードを読み取るか、専用URLにアクセスしてください。

※入江・高砂貝塚館ではチラシも配布しています。

QRコード



専用URL

<https://jomon-photo.jp>

